

宇部市教育委員会教育長賞

「一人のために支える」

宇部市立常盤中学校 2年 ^{うえだ}植田 ^{ちはる}千晴

「地震です。地震です。」

深夜みんながねむりについているところ、緊急地震速報が鳴ると共に家が揺れた。

「え？地震？どうすればいいの？」

私の頭の中は不安でいっぱいになった。パニックになりながらも私は机の下に隠れた。数分後揺れが止まり、母と弟が心配して部屋に声をかけに来てくれた。

「大丈夫？最近地震が多かったけれど、こんなに揺れたのは久しぶりだね。ここは震度四だけどひどいところは震度七だったらしいよ。」

私は震度四でも揺れたのにもっと大きく揺れるなんて恐ろしいと感じた。私の父はガス会社で働いている。震度四以上になると出勤しないといけなくなり、続く地震の速報があったため夜中だったが会社に行く準備をしていた。

後日、父に地震が起きることとガスはどのように関わっているのか聞いてみた。父は、「震度五以上の地震が起きるとガスが漏れ火災が起きるのを防いだり安全の確保をしたりするためにガスが自動で止まるんだよ。その復旧作業を行い僕たちは会社に出勤したんだ。他にも地震に備えて色々な対策をしているよ。」と言った。

私は他にどのような対策をしているのか気になり大きく二つ詳しく調べて

みた。

一つ目は水道についてだ。水道は地震による地面の揺れで継手部分が外れるなどして破損する可能性がある。災害が起こった際は、水道施設の被災状況を勘合して水道局が開設する小学校や地区公民館などの給水所に給水タンクを設置し、給水車で運搬給水を行う。よって大きい被害を受けた地域でも水を使うことができる。

二つ目は電気についてだ。電力会社では災害に強い電力設備の構築や万一の災害発生に備えた迅速な復旧体制の整備を基本として、常日頃、防災対策に取り組んでいる。実際に災害が起きた際には電気が復旧した時にブレーカーが遮断される停電の復旧を速やかに行う。よって地震などの災害が起こった後でも多少時間はかかるが電気を使うことができる。

地域では災害が起こっても私たち一人一人が安心して安全に過ごすことができるよう誰かが寝る間も惜しんで色々な工夫をしていることがわかった。

私は、個人でも災害に備えないといけないと考える。例えば、日頃から防災情報を収集し、状況を把握する。ハザードマップを確認する。家の中、部屋の中の危険を減らしておく。非常食や家庭用品を備蓄し、保存状態を定期的にチェックする。などだ。

近年は地震などの災害が非常に多く不安だが、これらのように私たち一人一人がもっと災害に対する意識を高め、日頃から周りの人に感謝をすることが大切だと考えた。

